

平成14年度石川県保育士試験問題

小児保健(その1)

[解答は全て解答用紙に記入すること。]

- 1 自分自身が考える「健康な小児像」とは何かについて述べなさい。
- 2 小児が健康に育っていくために、保育士として果たす具体的な役割について述べなさい。
- 3 発育の原則について述べなさい。
- 4 次の年齢群に合致する適切な発達の指標を下記から選びなさい。

指標は1回きりですべてを当てはめること。

- ① 3～4ヶ月 () ()
- ② 5～6ヶ月 () ()
- ③ 9～10ヶ月 () ()
- ④ 1歳～1歳6ヶ月 () ()
- ⑤ 3歳 () ()
- ⑥ 5歳 () ()

ア. あやすと声を立てて笑う	イ. 物をもう一方の手に持ち替えるようになる
ウ. 見せていたおもちゃを隠すと探す	エ. 定頸
オ. 記憶の再生能は1年位である	カ. 2語文がみられる
キ. 三角形を真似て書く	ク. 円を真似て書く
ケ. 一人で遊ぶ	コ. 大人の真似をするようになる
サ. 大脳皮質前頭野まで髓鞘化が進む	シ. 人見知り

- 5 次の文章で括弧の中の正しい方を選択しなさい。

- ① 乳幼児の脳の発育や視力、聴力などの機能は(ア. 3歳、イ. 6歳)でほぼ成人なみの機能に発育、発達する。
- ② 神経系の機能の発育は(ア. 脊髄から大脳皮質、イ. 大脳皮質から脊髄)の方向に発育し、それに従って、運動機能は(ア. 頭部から尾部、イ. 尾部から頭部)と一定の順序で発達する。
- ③ 頭蓋の(ア. 小泉門、イ. 大泉門)は生後6ヶ月から2歳で閉鎖するが、脳と直結した部分であり、(ア. 脱水、イ. 髓膜炎)になると陥凹するなど病気の診断に役立つ。
- ④ 胎盤を介して移行する免疫を(ア. 受動免疫、イ. 能動免疫)といい、生後半年くらいは種々の感染症を防止する。

受験番号

平成14年度石川県保育士試験問題

小児保健(その2)

6 次の文章の中で正しい文章には○を、間違っている文章には×をつけなさい。

- ① 食事は、栄養摂取という意味合いのみでなく、心の健康と関係がある。
- ② 食事の際には、乳幼児期はしつけが重要であり、食事中の会話は子どもの集中力をそぐので避けたほうがよい。
- ③ 消化吸収機能は年齢によって違い、食物アレルギーを引き起こす場合があるので、特に乳児期には食事内容は消化吸収機能に応じて慎重に選ぶ必要がある。
- ④ 乳児の肥満は、必ずしも成長後の肥満に結びつかないが、3歳以上の肥満は注意が必要である。

7 下記の文章に適当な言葉を入れ、文章を完成させなさい。

健康増進には（①）、（②）、休養の三つの柱があり、基本となる生活習慣が整うことは子どもの活動意欲につながる。休養の大きな柱は（③）であり、年齢が低いほど脳の成熟との関係から（④）時間が必要となる。また、適切な時間帯にとることで、（⑤）の分泌が促される。

8 救急蘇生法のABCについて、それぞれ何を意味するか、また乳幼児におけるポイントについて端的に述べよ。

9 次の文章の中で正しい文章には○を、間違っている文章には×をつけなさい。

- ① 保育所では感染症流行予防のため、予防すべき疾患と出席停止期間に関し学校保健法の規則が同様に適用され厳守されている。
- ② 伝染性軟属種(水いぼ)は、タオルを区別するなど注意すれば、プールに入る絶対的な禁忌とはならない。
- ③ SIDS(乳幼児突然死症候群)のリスク要因の一つには、うつぶせ寝があげられる。
- ④ 定期予防接種は、現在義務接種ではないが、疾病予防のためできるだけ受けるほうが望ましく勧奨することが必要である。
- ⑤ 腸重積は3歳以上によく起こる疾患である。

10 次の急性期の処置で正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。

- ① やけど——炎症を抑える軟膏を塗る。
- ② ボタン電池——自然に便に排出されるまで待つ。
- ③ 頭部打撲——症状がある場合でも一晩様子をみてからでも問題ないことが多い。
- ④ すり傷——傷口は可能な限り、流水で洗うなどして汚れを取りさる。
- ⑤ 飴などの異物による窒息——すぐに人工呼吸をはじめる。

受験番号

平成14年度石川県保育士試験解答用紙

小児保健

1					
2					
3					
4	(1) () ()		(2) () ()		(3) () ()
	(4) () ()		(5) () ()		(6) () ()
5	(1)	(2)		(3)	(4)
6	(1)	(2)	(3)	(4)	
7	(1)	(2)	(3)	(4)	
	(5)				
8					
9	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
10	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

受験番号	得点